

(様式2) 令和6年度 学校評価の4点セット整理票

1学期最終稿

検証・改善フローシート

月ごとのや学期途中での検証・改善に繰り返し使用できます。

玖珠町 立 学びの多様化 学校 令和6年 月 日

確認・検証・改善【 1 回目】

7月19日(金)実施

【学校の教育目標】 みんなが主役の学校 つながる・つながる・ひろげる

(評価 4:100%以上 3:80%以上100%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ※%は達成率)

【育成を目指す資質・能力】 問題解決能力、社会性

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当
【一】生涯学習の推進	多様な学びを認め合い、学びの幅を広げ、学びの質を高めること。	○学校教育目標「つながる」の具現化 ○活動内容・取組内容の精選	○毎週、職員会議で学校教育目標「つながる」について、職員の意識徹底を図る。 ○チーム担任制による打ち合わせを随時行い、児童生徒の興味関心に合った資料提示や活動機会を設定する。	教職員 全員
【二】未来志向の創出	「ひろげる」に係る児童生徒アンケートの「楽しみなが挑戦している」等の肯定的評価90%以上	○学校教育目標「ひろげる」の具現化 ○児童生徒の可能性をひろげるための機会の工夫	○毎週、職員会議で学校教育目標「ひろげる」について、職員の意識徹底を図る。 ○各活動において、児童生徒の作品や調べ学習の成果物を展示したり、活動の様子を掲示したりする機会を設ける。	
【三】学びを人生や社会に活かす力の育成	「みつける」に係る児童生徒アンケートの「積極的にみつけようとしている」等の肯定的評価70%以上	○学校教育目標「みつける」の具現化 ○児童生徒の活動の見取りや活動後の振り返りの工夫	○毎週、職員会議で学校教育目標「みつける」について、職員の意識徹底を図る。 ○各活動において、教科横断的に進捗状況とらえ、振り返りから評価を適切に実施する。	

取組指標に対する取組状況の確認	達成状況(エビデンス)	取組指標に対する達成状況の確認	達成状況(エビデンス)	検証	評価		改善方法
					計画	全体	
○毎週の職員会議で学校教育目標「つながる」について、職員の意識徹底を図った。 ○各学部、打ち合わせを随時行い、資料提示や活動機会を設定した。		「つながる」に係る児童生徒アンケートの「積極的につながろうとしている」等の肯定的評価71% 88%		○児童生徒との良好な関係を築くための具体的な事例を共有し、教職員間の活発な意見交換を行った。 ○各学部で、児童生徒アンケートを実施し、その結果を踏まえて改善策を検討した。	3	3	○活動後のフィードバックを積極的にを行い、改善点を共有し、より良い活動につなげる。
○毎週の職員会議で学校教育目標「ひろげる」について、職員の意識徹底を図った。 ○各学部、児童生徒の作品や調べ学習の成果物を展示したり、活動の様子を掲示したりする機会を設定した。		「ひろげる」に係る児童生徒アンケートの「楽しみなが挑戦している」等の肯定的評価82% 91%		○児童生徒の作品や調べ学習の成果物を展示したり、活動の様子を掲示したりする機会を設定した。 ○各学部で、児童生徒アンケートを実施し、その結果を踏まえて改善策を検討した。	3	3	○作品展示や発表会だけでなく、ポランティア活動や地域貢献活動など、様々な活動を実践していく。 ○ポートフォリオやプレゼンテーションなど、多様な評価方法を取り入れ、児童生徒の成長を多角的に捉える。
○毎週の職員会議で学校教育目標「みつける」について、職員の意識徹底を図った。 ○探究において、教科横断的に学びの見取りをとらえるチェックシートを活用した。		「みつける」に係る児童生徒アンケートの「積極的にみつけようとしている」等の肯定的評価41% 58%		○探究において、教科横断的に児童生徒の成長を捉え、一人ひとりに合わせた学習支援を行った。 ○各学部で、児童生徒アンケートを実施し、その結果を踏まえて改善策を検討した。	1	1	○各教科の知識や技能だけでなく、思考力、表現力、協働性など、様々な側面から児童生徒の成長を捉え、一人ひとりの個性や能力に合わせた教育活動に取り組む。
○家庭との協働 ○学期に1回程度の保護者懇談会を実施し、学校の教育活動の理解に努める。		○各家庭での子どもとの関わりについて、面談等を通じて、個別の把握に取り組んだ。 ○6月に保護者懇談会を実施し、教育活動の理解を図った。		○保護者との直接的なコミュニケーションを通じて、教育活動に対する理解を深め、家庭での学習支援や子どもの成長に対する関心を高めることにつながった。 ○保護者アンケートを実施し、保護者の意見や感想を収集することで、今後の改善につなげる。			○保護者アンケートは、学校と保護者が共に子どもの成長を願い、より良い教育環境を作るための重要なツールである。アンケート実施によって得られた貴重な情報を活かし、継続的な改善に取り組むことで、児童生徒の成長をサポートすることができる。
○地域との協働 ○学校の教育活動に対して、積極的に支援する。 ○CS(学校運営協議会)の設置とともに、会議を1回、開催する。		○環境整備や外部講師・看護師の派遣等、積極的に支援を行った。 ○CS(学校運営協議会)委員を決定し、8月に第1回会議を開催した。		○畑を借用した野菜づくりや外部講師による授業やワークショップにより、多様な学びの機会を提供した。 ○地域関係機関との連携を深め、より実践的な学びの機会を提供する。			○地域関係機関との連携を深め、より実践的な学びの機会を提供することは、児童生徒の成長を促し、地域社会との繋がりを深める上で非常に重要な取り組みとなる。この取り組みを通じて、児童生徒は知識だけでなく、社会に出て必要な様々な力を身につけることができる。

学校関係者評価 (9月5日)	
考察	評価
活動後のフィードバックは、単なる評価ではなく、より良い未来に向かって成長するための重要なプロセスである。積極的にフィードバックを行い、改善点を共有することで、個人、チーム、そして学校全体のレベルアップにつながる。	3
2つの改善方法は、児童生徒の成長を多角的に捉え、客観的に把握することで、学校の教育活動の充実につながる。多様な活動の実践や評価方法の導入には、学校全体の体制づくりが不可欠となる。	3
児童生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に引き出すためには、多角的な視点から成長を捉え、一人ひとりに合わせた教育活動に取り組むことが重要となる。そのためには、教職員の役割の自覚、学校全体の体制づくり、そして家庭・地域との連携が不可欠である。	1

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当
【一】働き方改革の推進	学校運営参画意識に係る教職員アンケートの「とても感じている」と答える積極的評価78%以上	○教職員の学校経営参画意識の向上	○各種主任等を中心として、学校運営に関する企画・提案を随時行う。 ○日常的なコミュニケーションを通じて、教職員一人ひとりの思いや願いを丁寧にとらえる。	校長 教頭

取組指標に対する取組状況の確認	達成状況(エビデンス)	取組指標に対する達成状況の確認	達成状況(エビデンス)	検証	評価	改善方法
○各種主任等を中心として、学校運営に関する企画・提案を随時行った。 ○日常的なコミュニケーションを通じて、教職員一人ひとりの思いや願いを丁寧にとらえるよう心がけた。		学校運営参画意識に係る教職員アンケートの「とても感じている」と答える積極的評価44% 58%		○教職員一人ひとりの多様な意見を生かす。より良いアイデアや改善点を具現化し、効果的な解決策を生み出すことができた。 ○チャットツールやSNSなどを活用し、よりコミュニケーションを取れるようする。	1	1

考察	評価
チャットツールやSNSの活用は、教職員間のコミュニケーションを活性化し、教育の質向上に貢献する可能性を秘めている。しかし、活用にあたっては、働き方改革をふまえたルールづくりが必要となる。	1